

4. 公共サインの設置及び管理に関すること

主管：地域振興課

経緯

木曾広域公共サインシステム整備事業は、木曾地域振興構想に基づく木曾地域景観形成事業の主幹事業として、平成7年度から調査、設計がされ、平成9～13年度にかけて国・県の補助金等を活用し、デザインを統一した案内看板（圏域サイン、町村サインなど）の整備が木曾圏域内で集中的に行われた。その後、平成18年度までに国道361号伊那木曾連絡道路（権兵衛トンネルなど）の開通等による未整備地区の案内看板を整備し、これまでに1,000基を超える公共サイン整備が完了した。

この整備事業は、各方面から町村の枠を越えた広域的な整備事業として評価を得ている。また、平成13年には長野県の「美しい信州の景観づくり功労賞」を受賞している。

現状と課題

1 公共サインの改修

現状 盤面表記の改修、照明器具の交換、LED化への改修を行っている。

課題 外国人観光客の増加が予想される中、多言語表記のサイン整備

2 公共サインの維持管理

現状 木曾圏域内の公共サイン整備は、平成18年度をもって完了し、以後は維持管理に努めてきた。

課題 改修を含めた適切な維持管理の継続

3 商業看板のあり方に関する研究

現状 公共サイン整備事業は、木曾地域景観形成事業を主幹としてきた。

課題 新たな商業看板等の設置に係る規制

今後の方針

木曾路の良好な景観形成に向け、既存公共サインの適切な維持管理と商業看板のあり方に関する研究を行う。

施策

1 公共サインの改修

① 老朽化等に伴う圏域サインを中心とした適切な改修

（日本遺産表記、照明器具のLED化、ピクトグラム（絵文字、絵ことば）・多言語表示の国際標準化など）

2 公共サインの維持管理

① 適切な維持管理計画の策定

② サイン周辺の環境整備

3 商業看板設置規制に関する研究